

..... 編集後記

◆ 今回は、地質調査船「白嶺丸」の引退に伴う海洋地質研究の特集号です。白嶺丸は、日本の海洋地質学の調査研究のシンボリックな存在でした。この特集号を通じて、基礎的科学調査に活躍したこの調査船によって得られた成果の一端を、読者の皆さまに少しでもお届けできましたら幸いです。これらの成果を3回にわたってご紹介していきます。

◆ 連載の第1回目は、12編の記事から構成されています。前半の内容から、白嶺丸の誕生の経緯と海洋学における日本の研究の発展史を伺うことができます。後半は、白嶺丸を活用して得られた研究成果が、今や世界の海洋科学界をリードするまでになった内容が取り扱われています。もとより、そこに書かれている内容には、日本の海洋学における発展や社会の要請を反映した研究が如実に示されています。それは、白嶺丸の誕生期の海底鉱物資源の調査・研究に始まり、海洋調査機器開発の進展、最近の海洋や湖沼の環境研究への移り変わりで、

◆ また、本特集を通じてお伝えしたい点は、水圏に関する調査・研究はまだまだ発展途上にあること、「資源小国・環境先進国の日本」をこれからも維持発展させるために、広く一般の方々のご理解とご支持それに好奇心が一番重要であること、などがあげられると思います。

◆ 本特集に隠された形になってしまいましたが、ここでもうひとつの掲載記事に触れさせていただきます

す。それは、岩石物性の測定に関する新手法の紹介です。執筆者の一人、林(Lin)さんは、地質調査所に来られている重点研究協力員です。この記事を読むと、岩石の性質に関する値の測定精度を上げることは重要であることがわかります。また、私たちの生活にとって、たとえば断熱材、防音材への利用、山岳地帯の道路建設やトンネルの建設などのさい、このような仕事の結果がどのように利用できるのかなど、想像しながら読まれたら役立つかと思えます。

◆ 最後に、本誌の掲載記事の中で読者の皆様の心の片隅に少しでも残るものがあれば、編集した者の一人として望外の喜びです。(飯笹幸吉)

◆ 3月号の巻頭エッセイ「『地質』の記念日を創りましょう」に賛成のご意見が寄せられましたので御紹介いたします。

「今手元に届いた『地質ニュース 2000 3』を拝読しております。まさに我が意を得たり、の感を受けました。モンゴルとロシアの友人(D. バトボルドモンゴル地質調査所国際協力室長, Dr. G. アンドレイ)から聞いていたジオロジストの日(月日は今覚えていませんが、たしか国民の祭日とのこと)を常々うらやましく思っておりました。日本でもぜひこのような記念日ができることを願っています。」

(松江市 岩田様)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・前川竜男・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係(河村幸男・渡辺光次)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-61-3520

Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第549号	2000年	5月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
2000年5月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2000 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ